（様式1）　　平成　27　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2892000247		
法人名	社会福祉法人　山輝会		
事業所名	グループホーム　ブリランテ明石		
所在地	兵庫県明石市北王子町13-41		
自己評価作成日	2015/12/15	評価結果市町村受理日	2016年　4月　7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町８－８－１０４
訪問調査日	平成２８年２月１８日（木）

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の持てる力を活用し、笑顔で生活して頂けるように努めています。また、明石西公園が隣接されていることから毎朝の散歩では公園の景色を楽しむことも大切にしています。

・食事は普通の家と同じように材料の買い出しから入居者様と一緒に行い、
　一緒に作り、パートナーも一緒に食べています。
・毎朝の散歩を日課として取り入れ、体力の向上、閉じこもりの防止に努めています。
・日々の様子をブログで発信し、ご家族等に入居者様の表情を見て頂けるようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人理念「自立、敬愛、共生」に基づく行動規範を実践している。職員の笑顔が利用者の笑顔を招くとの思いを強く持ち、職員が率先して楽しさを作り出している。特に今年度は、毎日の外出を心掛け、積極的な利用者へのかかわりを試みている。職員は、利用者がそれぞれに自分なりの役割を見つけて、自発的に行動することを見守ろうとしている。地域との連携も、時間を重ねる中で少しづつ実を結びつつあり、今後も機会あるごとに取り組もうという意欲が見られる。利用者を支える大きな要素である家族の存在も重視し、協力を得ることに努めている。2ヵ月に一度、職員が手書きする報告レターには、転倒や離設のあったことも隠さず書き、信頼関係の構築に努めている。責任者は、今後も、研修の機会を多く持つとともに、職員間のコミュニケーションを図り技術向上を目指そうと計画している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パートナー（職員）が、理念を常に意識できるよう、事業所内（1階スタッフルーム）の目に付く場所に貼りだしている。また、法人内の事業計画にも落とし込み、理念の実現に向けて取り組んでいる。	4年目を迎える今年度、法人理念に基づき、職員全員で事業所の理念を振り返った。新たな事業所理念をもとに、職員研修への取り組みはもちろん、日々の支援の中で活かす努力に取り組んでいる。責任者は、職員が一丸となって、まだまだ工夫する余地があると考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の幼稚園との交流を行うことができる様になった。 引き続き近隣の公園での散歩や喫茶店、買い物に行くことで顔なじみもできてきている。	運営推進会議での地域からの情報をもとに、積極的に地域と付き合っている。幼稚園の親子を対象に、車いす体験を実施したり、運動会や作品展に利用者と出かけている。毎日の公園への散歩や買い物、喫茶店での隣人とのあいさつや会話も、見慣れた光景となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の依頼を2回受けさせて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの報告を行うとともに、委員より頂いた意見をサービスに反映している。また、地域のイベント情報もお教え下さり、参加に繋がっているものもある。	各フロアーから代表の利用者と家族、自治会長、民生委員、知見者としての在宅介護支援センター職員、法人関係者が参加している。しかし、地域包括や市担当者の参加はない。家族から希望のあった特別養護老人ホームについての説明会はさっそく実施に至った。	市の窓口をはじめ、家族全員への議事録送付などにより、より活発な意見交換を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点などがあれば、市の担当者に確認しながら進めている。	法人窓口としてはもちろん、事業所としても良好な連携を図っている。事業所の短期入所生活介護利用の申請や、ケアマネが現場の支援に携わってもよいか、といった日常業務のことなども気軽に相談できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関は、夜間の戸締りとやむを得ない場合以外は施錠していないが、玄関先にセンサーチャイムを設置している。外へ行きたい訴えがある時には、可能な範囲で付き添うようにしている。	今年度中に研修を予定している。離設の事例も発生しているが、利用者、家族の了解のもと、一切の身体拘束を行わない支援を完遂している。もちろんそれに伴うリスクも想定し、理解を得るとともに、最大限の努力を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新入職者に対しては、法人として虐待防止に関する研修を行っている。 また、普段から面談を行いストレスについて吐き出せるようにしている。	新人研修以外は身体拘束と合わせた研修を行っている。責任者は、一人業務の時やストレス蓄積時などが虐待の原因になりうると考え、面談などのコミュニケーションを大切にしている。法人としては、さらに職員のスキル向上を目指し、虐待防止を目指している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士として後見人となるための研修課程を修了している責任者を講師として内部研修を行った。	成年後見制度の利用者が1人いる。研修を実施するとともに、利用の必要性があると思われるときは、家族に情報提供し紹介した事例もある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書、金銭にかかる同意書の説明を個別に行い、疑問点がなくなってから契約をしている。入居後に出た疑問点も、その都度、説明させて頂いている。	見学、体験を受け入れている。入院先や利用前の施設、自宅への訪問も行い説明している。「グループホームってどんなとこ」「介護保険とは」「料金はどれくらい」といった質問にも丁寧に答え、納得の上での契約となっている。看取りをしないことや、身体拘束ゼロの取り組みも説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別養護老人ホームについての質問があったことから特養の相談員に協力してもらい説明会を開催した。また、2ヵ月に一度はパートナーからの手紙をお送りし、信頼関係作りに努めている。	運営推進会議後の昼食会や、家族来訪時などに積極的に話しかけ意見を引き出す努力をしているが、運営に関する意見は少ない。個別の外出希望などの意見はできるだけ反映に努め、利用者、家族の信頼関係構築を心掛けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では事前に議題を配りその他の検討事項があればメモをもらって会議を行っている。	月1回開催の会議や、申し送りノート、個人面談などで意見の抽出を図っている。資格取得に伴い非常勤職員のベースアップへの反映などの事例がある。しかし、顔を合わせてのミーティングは時間的に難しい状況があり、適切に実施されてはいない。	日々の申し送り時などを利用し、短時間からでも話し合いの機会を持たれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課制度を導入し、個々のパートナーの日々の働きぶりや、目標に対する取り組みや結果を給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じた外部研修に参加させたり、内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市内のグループホーム部会に加入しており、責任者は定例会に参加している。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴時、他の方々が就寝された後などパートナーと二人きりになれるタイミングで、ゆっくりとお話を伺うよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、入居前面談などでは、ご家族の思いや考えを、ありのまま受け止めるよう努め、指導的な対応とならないよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際には、その方の現状を聞かせて頂き、法人内のサービスだけでなく、他法人のサービスもご紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除、洗濯、散歩、買い物に行き、協力し合って生活しているが、まだまだ介護する側として管理的な接し方をしている部分も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も参加できる行事を実施したり、2ヵ月に一度、様子を伝える手紙をお送りしている。また、小さなことでもご家族に相談させて頂き、共にご本人を支えていく関係となるよう努めている。		
20	（11）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の美容院へ今でも行かれている方もいる。また、ご本人のお話から昔よく行っていた商店街や喫茶店へのお出かけも行っている。	利用者自身からの聞き取りや家族からの情報で、なじみの関係を把握している。行きつけの理美容店、通院、買い物などの送迎支援などを行っている。以前の友人や近隣の知人の訪問も、たまにではあるがあり、関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が参加できるようなレクリエーション、風船バレー、張り絵、体操、将棋、新聞の確認等を取り入れて、共同で何かをするという場を作っている。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了時、いつでもご相談頂けるよう声をかけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望などは、プランの更新時だけでなく、日常的にアセスメントシートに追記するようにしている。また、カンファレンスにはご本人も参加して頂くようにしている。	アセスメントでの聞き取りのほか、入浴時や個別になれる時間に聞き取ることもある。困難な場合は、家族や日常の観察の中から把握するようにしている。ゴルフの素振り行動をよくとっていたり、居室で裁縫道具を広げている利用者があり、思いを支援計画に盛り込むことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族だけでなく、会いに来て下さるご友人からも昔のことをお聞きし、ケアする上でのヒントとしている。また、アセスメントシートも新たな情報を書き足しやすいものを採用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後、時間が経つにつれ、一人ひとり一日の過ごし方は把握できてきている。また、心身の状態や能力などについても、申し送りやケース記録を活用し、パートナー間で現状を共有している。		
26	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、パートナーの意見はプランに反映しているが、その他の関係者の意見までは取り入れられていない。ICFの考え方も取り入れながらプラン作成を行っている。	入居後、アセスメントに基づき、暫定プランをケアマネがたてる。約1ヵ月後、担当職員も含め再び利用者、家族の要望などを聞きプラン作成に至る。モニタリングは担当職員が半年に1回行い、ケアマネとすり合わせし計画の見直しを行う。医療関係者などの意見ももちろん参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は会話文も多くし、気づきや対応の参考になる様に努めているが、パートナーの経験の差などによって、単なる行動記録となってしまっている場合もある。 会話から個別外出にも繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望で一緒に買い物に行ったり、外食したりもしている。また、必要に応じて通院の支援、歯科・皮膚科の往診依頼を行うなど柔軟に対応している。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだ少ないが、毎日の散歩や行きつけのスーパーでの顔見知りが出来てきている。その他、行きつけの美容院や喫茶店に引き続き行かれている方もおられる。		
30	（14）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力も得ながらほとんどの方が、入居前からのかかりつけ医に引き続き診てもらっている。ただし、ご家族の状況によっては、往診の依頼や通院の支援も行っている。	利用者・家族の希望でかかりつけ医を継続している。要望により定期的な認知症専門医や皮膚科、歯科の往診体制があり、医師との連携や情報交換が容易となっている。また、利用者・家族の通院の負担軽減につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パートナーがとらえた情報や気づきは受診に付き添われるご家族や往診の医師にお伝えしている。また、傷の処置などであれば法人内特養の看護師の協力も得られている。		
32	（15）	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との窓口を事業所が行う場合と、ご家族がされる場合で異なるが、入院中の状態把握のため、まめに連絡を取り合い、退院前には直接病院へ様子を見に行かせてもらうようにしている。	入院時はサマリーにて情報提供を行い、家族と連絡を取ったり、見舞いに行き、状態把握に努めている。また、退院前カンファレンスに参加し、スムーズに退院できるよう支援している。今年度は2名の入院があったが1ヶ月以内に退院し事業所へ戻ってきている。	
33	（16）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合に備えて、法人内に特養がありお申込み頂けることはお伝えしている。特養の相談員に協力してもらい特養説明会を行った。また、看取り介護は実施しない方針を明確にしており、ご家族に対しても文書を使い説明している。	本来のグループホームの役割を充実させることを優先し、看取り介護は行わないことを、契約時に利用者・家族に説明し了解を得ている。重症化を見据え、特養を申し込んでいる利用者も多く、トラブルなく移行している。また、末期癌の利用者がいるが、意向や手順など申し合わせがあり、方向性が共有できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練も定期的には行えておらず、全てのパートナーが確実に実践できる状態とはなっていない。		
35	（17）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を実施している。また、万が一、火災などが発生した場合には同一敷地内の特養と協力する体制をとっている。	法人全体で防災委員会が設置され、想定される水害や地震などを含むマニュアルを作成中である。3～6日分の食品と応急用品の備蓄をしている。定期的な火災訓練を実施し、法人内の協力体制は整っているが、地域との連携への取り組みがまだ不十分である。	地域の避難訓練に参加したり、事業所の火災訓練を見学してもらうなど、身近なところから地域との協力体制作りを進めてはいかがだろうか。

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として接遇マニュアルを作成しているが振り返る機会を持つ事が出来ていない。	トイレの誘導時や、排泄の失敗時に特にプライバシーやプライドを損なわない対応を心がけている。散歩や体操などの日課はあるが、プライバシーや自主性を尊重し、個室で和裁などの趣味や昼寝、読書、庭の手入れなど、自由な時間も見守りつつ支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても可能な限り入居者様に選択して頂くようにしている。また、イベントや入浴なども、無理強いはせずご本人が「したい」と思う声かけを工夫したり、タイミングを見計らうよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝など一律に時間は決めず、お一人おひとりのペースで過ごして頂けるように支援している。ただし、入浴に関しては安全への配慮から、「寝る前に入りたい」などの希望に沿えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に服選びはパートナーが決めるのではなく、入居者様と一緒に選ぶように心がけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出し、調理、片付けまで、可能な限り入居者様と一緒に行うようにしている。また、昼食はパートナーも同じものを一緒に食べ、楽しい食事となる様に努めている。	メニューは利用者と共にレシピ本を見て、献立に反映することも多い。買い物は数人づつ順番で行き、職員と共に調理や後片付を行っている。また、菜園で収穫した野菜をメニューに取り入れたり、個々に自分のお茶碗で食べる、晩酌を楽しむなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックしている。水分量は必要な方のみ個別にチェックし、飲みやすい物を提供するなど工夫している。また、毎月、体重測定を行い、増減を食事量の調整や献立作成に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を取り入れ、入居者様の口腔状態の把握、改善に取り組んでいる。日常の口腔ケアについては、全員に対して毎食後は実施できていない。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で状況を把握し、紙パンツとパッドから布パンツとパッドに変更できた方もいる。パッドを使用しながらも、基本的に日中は全員がトイレでの排泄を行っている。	排泄の自立へ向けた取り組みとして、排泄パターンによる誘導や、徐々に段階を経て排泄用品を外していくなどの工夫を行っている。現在は半数近くが自立している。排泄後、状況によりウォシュレットや陰洗、シャワー浴などを行い清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤が必要な場合もあるが、それらを少しでも減らせるよう、水分、運動、食べ物などを工夫しながら、自然排便に向けて取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、柔軟に対応してはいるものの、毎日入りたいなどの希望には添うことができていない。しかし、一対一でのゆったりとした気持ちの良い入浴は提供できている。	入浴日については、利用者の要望に柔軟に対応しているが、夜間や早朝の入浴は困難な状況である。脱衣場は暖房があり、好みの湯の温度や入浴剤、柚子湯などで気持ち良く入浴できる工夫をしている。以前にスーパー温泉に行ったことがあり、要望があれば実施したいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状態に合わせて安心して休んで頂けるように声かけや寄り添うように関わらせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、1回分をひとかたまりにし、服薬日、服薬のタイミング、氏名を記し、飲み間違いの防止に努めるとともに、薬情をケースファイルに綴じ、内容を把握できるようにしている。変更時には申し送って確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後も晩酌も楽しんでもらうなど、入居者様全員を一律に考えず、個々にお好きなことが出来るようにしている。また、買い物、料理、ゴミ捨てなど、個々の能力を活かした役割を担ってくださる方もいらっしゃる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、希望者と一緒に近くの公園まで散歩に出掛けたり、ベランダを歩いたり食材の買い出しに出かけている。また、外食や洋服の買い物、ドライブ、地域のイベントに参加したりしている。しかし、地域の方と協力しながらという機会は設けられていない。	毎日の日課となっている朝の散歩を楽しみにしている利用者も多い。食事の買い出しや、利用者の要望で近くの喫茶店や大型スーパー、法人の特養など近隣の外出は日常的に実施している。ドライブや花見など家族が予定表を見て外出レクに参加することもある。	

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な入居者様には、食材の買出しの際にお財布をお渡しし、お支払いをして頂いたりもしている。また、ご家族の理解の上で、個人で自由にお金を持って頂いているが、使う機会はあまりない状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など希望があれば個別に対応、支援している。また、パートナーが送っている2カ月に一度のご家族への手紙にご本人からの言葉を添えることもある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着き、安心して過ごせるよう、照明、音の大きさ、温度、湿度などに配慮している。また、地域の情報や施設内のイベントの様子を思い出せるコーナーを設け、良い刺激を感じられるようにしている。	高い天井と十分な採光、リビングから庭やベランダに出られる開放的な作りとなっている。広いリビングには掘こたつのある畳敷きのスペースやソファがあり、利用者は好みの場所で寛ぐことができる。清掃は職員と共に利用者も一緒に行い、清潔に保たれている。左右障害別トイレがあり障害に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも個別の空間をいくつか設けるように工夫し、それぞれの方がその時々で自由に落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込む物について、制限は設けず、ご本人が安心できるものは、なんでも持ち込んで頂くようにお伝えしている。結果、使い慣れた家具や小物を配置している方もおられる。	各居室に洗面台があり、備え付けのベットや持ち込みの家具は個々に使いやすように配置されている。手作りのステンドグラスのランプや仏壇、趣味の和裁道具、机、家族のデジタルフォトフレーム、大型テレビなど個々にこだわりの物が置かれ個性的な居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見ればわかるようにトイレやスイッチに表示をつけているところもある。また、廊下に手すりを設置し、1人で移動できるようにしている。居室内の家具やベッドの位置や向きにも配慮し転倒の予防に努めている。		